

SeaCAST 導入事例 — 郵船クルーズ

# 巨大客船ビジネスの 複雑な会計処理には 一般ソフトでは対応不可



郵船クルーズ 管理部長 東川猛氏

豪華客船によるクルーズを企画・実施している郵船クルーズは、会計システムに「SeaCAST」(販売元:郵船情報開発)を採用した。数あるERPパッケージの中から同製品を選択した理由は、海運・旅行・ホテル・飲食という4業態が混在する複雑な会計処理に対応できる点を評価したからだ。

郵船クルーズ(東京都千代田区、那波光俊社長)では、豪華客船「飛鳥」での船旅を企画・実施している。クルーズメニューには、1泊2日のワンナイトクルーズから、数カ月をかけての世界一周クルーズまでが用意されている。

客船ビジネスでは陸上のみならず船上でも様々な費用が発生し、これらの費用をタイムリーにきちんと仕訳し、管理しなければならない。しかし「客船ビジネスは海運業であり、旅行業でもあり、またホ

た独特の商習慣への対応など、処理は複雑を極める。以前は一般の会計ソフトを導入していたが、上記の要件には対応しておらず、大幅なカスタマイズを施した上で運用せざるを得なかった。

やがて2000年問題が起こり、同社でも対応を迫られた。システムのリプレイスにあたって、手組みパッケージかを検討。今までのカスタマイズの工数やコストを振り返り、容易に開発・導入・メンテナンスできると思われるERPパッケージを選択した。

パッケージ選定にあたっては、97年から98年にかけて国内外の4製品を比較検討。船舶業界向けパッケージとして、上記の要件に標準対応している点、そしてコストとカスタマイズ性を評価し、「SeaCAST」を採用した。実際の導入作業は99年1月にスタートし、年内にカットオーバーさせた。

## 新システム導入が 企業の活性化となる

SeaCASTの導入により、社内の業務効率は格段に上がったという。

郵船クルーズは、船舶部門、ホテル部門など、機能別に数社に分社化しており、それぞれの間で発生した費用の「付け替え」をしていた。これも従来は帳票を見ながら手作業で付き合わせていたが、今回のシステム導入により自動化された。従来、担当者が計算していた複数通貨間の換算処理や、入金から支払までの一貫処理もシステムに移管できた。

また伝票処理に要する時間も大幅に短縮された。以前は各部署の担当者が紙の伝票を起票し、それを経理の担当者が改めてシステムに入力していた。それをデータが発生した場所で担当者が直接入力するようにしたため、データ取り込みまでの作業を削減。同時に、誤入力などのミスも低減できている。

担当者が直接データを入力するため、自分の業務に対する責任感が強まるといった副次的効果も出て、企業全体の活性化につながっているとのことだ。

東川部長は、「今後は予算管理機能を充実させ、予実管理の省略化を目指したい」と展望を語っている。



豪華客船「飛鳥」 撮影:中村庸夫

### お問い合わせ先

株式会社エイ・アイ・エス  
東京都文京区本郷2-15-13  
お茶の水ウィングビル9F  
TEL 03-5842-6681  
FAX 03-5842-6684  
<http://www.a-i-s.co.jp/>

テル、飲食業の面も持っています(東川猛管理部長)という同社の会計処理は、一筋縄ではいかない。

各国の港における現地通貨での精算や、決算期をまたがった航海での経費処理、さらに港湾事業者への「立て替え」といっ